

古城郡長を偲んで



古城郡長への思いを語る萩平会長

「古城弥次郎さんに学ぶ」

八代第七中学校 萩平隆叶

私たちの住んでいる郡築は、トマトやメロン、イグサなどの農作物で豊かな町です。このような郡築があるのは、干拓事業に関わられた多くの方々のおかげだと思います。

先日、古城弥次郎さんの苦労や郡築干拓について書かれた「さよならの写真」を読みました。今ある郡築は、どのようにして干拓されたのか、郡築干拓に込められた古城弥次郎さんや干拓事業に関わられた方々の思い、などについて考えることができました。その中で、私が、古城さんの思いに胸を打たれた場面が二つあります。

一つ目は、古城さんが、八代郡長に、再度任命された場面です。古城さんは、赴任するとすぐに工事現場の近くに下宿して、昼は工事の監督にあたり、夜は反対派の集会に出かけて説得にあたっていたそうです。私は、そこから、郡築干拓に対する思いがとても強い人だと思いました。

二つ目は、工事中に八代地方を台風が襲った場面です。工事が順調に進み始めたころ、猛烈な台風襲われ、苦労に苦労を重ねて築いた堤防が、無残にも破壊されました。古城さんは、目の前が真っ暗になり、この先どう工事を進めていこうか迷っているとき、工事に反対していた議員や住民たちが発した言葉にはっとさせられます。「郡長、こんくらのこつて弱音を吐いたら、今までのことが何にもなりませんか。私どももがんばりますけん、気を取り直して指揮をとってください。」という言葉です。初めは工事に反対した議員や住民たちも、このことをきっかけに一致団結して、お互い頑張っていこうとしていたからです。この言葉を聞き古城さんは、「よし、もう一度銀行に行ってかけ合ってみよう。それ以外に方法はないのだ。」と銀行に交渉するために上京することを固く決心しました。お金を借りるために、命をかけて上京する日の朝、古城郡長が写真を撮るために写真屋を呼びました。ただ写真を撮るのではなく、自分の後ろ姿を撮らせて、「これでいいんだよ。後ろ姿を写してもらいたいのだ。さよならの写真だ。」と言いました。「命をかけてお金を借りに行く、郡築干拓を成功させる。」といった古城さんの決意が感じ取れ、とても印象に残っています。

私は、今ある郡築は、古城弥次郎さんや干拓事業に関わった方々の苦労があったからだと学びました。そのことを忘れず、郡築の歴史や素晴らしい伝統を伝え続けたいと思います。古城弥次郎さんが豊かな土地を造るために志を貫かれたことに学び、私も、一つのことを中途半端で終わらせるのではなく、最後まで一生懸命に取り組んでいこうと思います。

去る2月9日(金)に、郡築地区の潮止め工事完了120周年を記念して古城郡長墓前祭が行われました。

古城弥次郎氏は、当時の八代郡長として、潮止め工事を取り仕切った人です。幾多の苦難を乗り越え、明治37年に無事潮止めが完了しました。その後、先人達の努力によって、現在の豊かな郡築平野が築られました。

墓前祭では、中村八代市長や中野町づくり協議会長が挨拶を述べられた後、本校の萩平隆叶生徒会長が、多くの参列者の皆さんの前で、立派に古城弥次郎氏の功績や干拓に関わった多くの方々への思いを語ることができました。右が、その時の発表原稿です。先人への感謝の気持ちとこれからの決意が感じられます。

また、本校校区の昭和地区にも、近代農業を多くの方に伝えられ、農業の発展に尽力された先人がおられます。そのような校区の先人達の努力に、敬意と感謝の気持ちを忘れず、開拓魂を受け継いでいきたいと思います。

被災地に想いを寄せて

1月の能登半島地震を受け、被災者の方々のお役に立ちたいという思いから、生徒会執行部が企画し募金活動を実施しました。また、取組に賛同いただき、お子さんに義援金を持たせていただいたご家庭も多かったとお聞きしております。お気持ちありがとうございました。熊本地震や令和2年7月豪雨を経験した私たちだからこそ共感できることがあると思います。2月1日から14日までの2週間、登校する生徒一人一人と挨拶を交わしながら募金活動に取り組んだ執行部の生徒達に感謝です。

